

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	イサツキシマブの投与を行った再発・難治性多発性骨髄腫23例の後方視的解析
研究責任者	血液内科 副部長 塚田 信弘
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>研究の概要: 2006年以来、新規薬剤と呼ばれるボルテゾミブ(ベルケイド)、サリドマイド(サレド)、レナリドミド(レブラミド)の登場により多発性骨髄腫の治療成績は向上しています。さらに、2015年にはポマリドミド(ポマリスト)、パノビノスタット(ファリーダック)が、2016年にはカルフィルゾミブ(カイクロリス)、エロツズマブ(エムプリシティ)が、そして2017年にはイキサゾミブ(ニラーロ)、ダラツムマブ(ダラザレックス)が登場しました。2020年に登場したイサツキシマブ(サークリサ)はダラツムマブに次ぐ2番目の抗CD38モノクローナル抗体で、再発・難治性の多発性骨髄腫が適応となります。イサツキシマブの市販後のデータは限られていることから、今回私たちは、当院においてイサツキシマブの投与を受けた多発性骨髄腫の患者さんの治療効果、副作用等について後方視的研究を行うことを計画しました。</p>
研究方法	<p>対象: 当センターにおいて2020年9月～2021年3月にイサツキシマブ(サークリサ)の投与を行われた多発性骨髄腫の患者さん23例を対象としています。</p> <p>研究の方法: 診療録をもとに、患者さんの背景、治療成績、副作用等を解析します。</p> <p>倫理的配慮: 個人情報の保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は下記までご連絡下さい。参加を希望されない場合でも不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者: 塚田 信弘 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>